中島文雄著

英語の構造

下

岩波新書

134

中島文雄著

英語の構造

下

岩波新書

134

中島文雄

1904年東京都に生まれる
1927年東京大学文学部卒業
現在—東京大学名誉教授，日本学士院会員
専攻—英語学(英語史，言語理論，英文法)
著書—「英語発達史改訂版」(岩波全書)
「意味論」「英語の常識」
「文法の原理」「英語学研究室」
「英文法の体系」「英語—文法と鑑賞」
「近代英語とその文体」
「岩波英和大辞典」「英語語源小辞典」
「新コンサイス和英辞典」

英語の構造 下（全2冊）　岩波新書(黄版) 134

1980年10月20日　第1刷発行©
1981年 4 月10日　第3刷発行

定価380円

著　者　中島文雄（なかじま ふみお）

発行者　緑川亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋2-5-5
発行所　株式会社 岩波書店
電話 03-265-4111
振替 東京 6-26240

印刷・精興社　製本・永井製本

落丁本・乱丁本はお取替いたします

略 語 表

A	adjective
Aa	adjectival adjunct
Adv	adverb
AP	adjective phrase
Art	article
Aux	auxiliary
Deg	degree adverb
Dem	demonstrative
Det	determiner
Gen	genitive
Int	intensifier
M	modal auxiliary
N	noun
Na	nominal adjective
Neg	negative
NP	noun phrase
P	preposition
Poss	possessive ending
PP	prepositional phrase
Pres	present
Prt	adverbial particle
S	sentence
S_0	bare sentence
Semi-aux	semi-auxiliary
Tns	tense
V	verb
Vc	copulative verb
Vm	middle verb
VP	verb phrase
ϕ	zero

目　次

略語表

XV　能動文と受動文(1)…… 1

XVI　能動文と受動文(2)…… 13

XVII　目的語の諸相 …… 25

XVIII　主語と主題 …… 39

XIX　場面の IT …… 49

XX　形容詞(1)…… 59

XXI　前置詞句…… 71

XXII　副詞 …… 85

XXIII　形容詞(2)…… 95

XXIV　程度の比較 ……109

XXV　名詞化 ……123

XXVI　属格の種類 ……135

XXVII　否定文 ……151

XXVIII　複合動詞句と複合文 ……159

構造規則 ……175

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

上巻 目　次

はしがき

略語表

I　基本構造

II　使役動詞と作為動詞

III　関係詞節

IV　感覚動詞と知覚動詞

V　知覚動詞と思考動詞

VI　思考動詞と認識動詞

VII　告知動詞

VIII　情意動詞

IX　連鎖動詞句

X　不定詞句と動名詞句

XI　句動詞・前置詞動詞

XII　相(ASPECT)動詞

XIII　助動詞

XIV　叙想法

構造規則

XV　能動文と受動文(1)

I章で述べたように，英語の基本文型は次のように表記できる．

(1)　$S \rightarrow Tns\ S_0$

$S_0 \rightarrow NP\ VP$

$VP \rightarrow V\ (NP)\ (PP)$

$PP \rightarrow P\ NP$

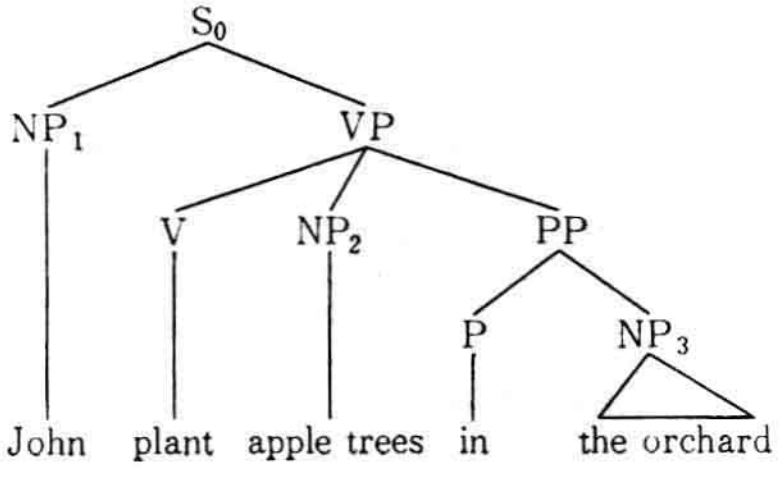
$NP \rightarrow (Det)\ N$

この規則がもっと拡充できることは，これまでの諸章で述べてきた通りであるが，(1)が基本的な型であり，これは能動態(active voice)平叙文(declarative sentence)の構造である．VPが三つの構成素から成る文

(2)　John planted apple trees in the orchard.

を例にとると，その構造は次のようになる．

(3)



ここに三つのNPがあるので便宜上数字をつけておいたが，動詞(*plant*)に先行するNP_1(*John*)は主語，直後のNP_2(*apple trees*)は目的語，動詞の補語をなすPPのなかのNP_3(*the orchard*)は前置詞の目的語とよばれる．同じNPでも文中の機能をことにしている．(1)の規則にはこの機能のちがいも表わされているのである．

これらのNPは動詞の意味を中心に相互に関係しているわけであるが，動詞の意味はこれまで見てきたところでも使役動詞，感覚動詞，知覚動詞，思考動詞，告知動詞，情意動詞など多種多様であり，従ってNP間の関係もさまざまである．しかしそのさまざまな意味の型の中で最も代表的なものは，動詞が何らかの動作を表わし，主語が動作主(agent)であり，目的語が受動者(patient)という型である．(2)の文では*John*が動作主，*apple trees*が受動者，*in the orchard*が場所規定(locative)ということになる．*John*は「植えるもの」，*apple trees*は「植えられるもの」として相関関係に立つ．

動作主—動作—受動者という型は，

(4) The hunter killed the bear.

のような文においては意味内容と一致するが，

(5) The frost has killed the flowers.

(6) This key opened the door.

(7) She fears mice.

などにおいては比喩的な意味しかもたない．(5)の*the*

frost は自然力(natural agent)を，(6)の *this key* は道具(instrument)を意味しているが，比喩的には動作主として捉えられている．(7)の主語もそうであるが，意味からいうと動作主というより受動者であろう．

こう見てくると，能動態とよばれる文の主語はさまざまであることがわかる．それにもかかわらず，それらが能動文と感じられるのは，主語が動作主であるかのような表象を伴うからであるが，それだけで主語と意識されるわけではない．意味からいうと多くの主語は動作主ではないが，文の主題(theme)であるという点で共通点をもっている．実は subject(主語)という英語の術語はあいまいで，これは動作主という意味にも主題という意味にもなる．動作主でなくても文の主題にはなりうるから，文の構造は一般的には主題(NP)と記述(VP)からなるということができる．(2)の *John* は動作主であると同時に主題として直格(casus rectus)で考えられており，これに対し *apple trees* や *the orchard* は斜格(casus obliquus)で考えられている．相関関係にある二項のうち，一方が直格で考えられるとき，他は必然的に斜格で考えられる．相関概念，たとえば「夫」と「妻」とを考えるとき，一方を直格で考えれば他は必ず斜格で考えられている．(2)では「植えるもの」が直格で考えられているから *John* が主語になっている．もし「植えられるもの」を直格にすれば，*apple trees* が主題になって，

(8) Apple trees were planted in the orchard (by John).

となる．*John* は依然動作主ではあるが斜格になる(*by* は動作主を示す前置詞である)．また *in the orchard* は場所規定を表わす補語であるが，場所を *plant* の目的語とすることも可能で(2)の文は

(9) John planted the orchard with apple trees.

とすることもできる．この場合は(2)の目的語と補語とが入れかわっているが，それは同じ斜格でもどちらを「植えるもの」の直接の相関者と見るかによるちがいである．

動詞の意味が相関関係を含むとき，その動詞は他動詞で目的語をとる．ただしこの目的語は文脈からいって明らかなときは表現されないことがある．

(10) We ate and drank too much.

(11) I neither drink nor smoke.

(12) I must change for dinner.(着替える)

(13) You must change at next station.(乗り換える)

(14) I have already written to him.(手紙を)

(15) He teaches for living.

これらに見られる動詞は本来他動詞であるから，上例のように目的語がない場合でもやはり他動詞で，[V NP] の NP がゼロの場合と考えられる．

他動詞に対し相関関係を意味しない動詞は自動詞とよぶことができる．目的語はないが場所・方向・起点(source)・着点(goal)・道具(手段)などを表わすPPを相対的規定としてとることが多い．

(16)　The baby is sleeping in the crib.

(17)　They drove to the airport.

同じような構造でも次の場合は主語のNPとPP内のNPとが対称的(symmetrical)な関係にある．従って，どちらを主語にすることもできれば，また両方を一緒に主語にすることもできる．

(18) a.　The tanker collided with the steamer in the harbor.

b.　The steamer collided with the tanker in the harbor.

c.　The tanker and the steamer collided in the harbor.

(19) a.　My opinion differs slightly from yours.

b.　Your opinion differs slightly from mine.

c.　My opinion and yours differ slightly.

次の例も同じように二つのNPが対称的な関係にあるが，一方が目的語の位置に現われる．

(20) a.　John married Mary in June last year.

b.　Mary married John in June last year.

c.　John and Mary married in June last year.

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

この *marry* は他動詞ではない．結婚当事者でない者が他の人を「結婚させる」というときは，

(21)　The priest married John and Mary.

のように他動詞であるが，(20) の場合は *get married* (*to*) と同じく対称的動詞というべきである．

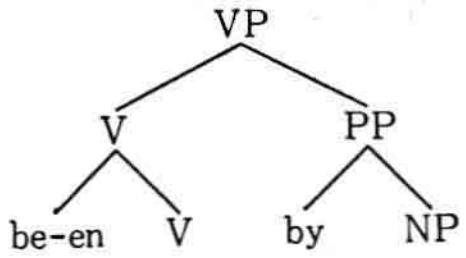
ここで主語—目的語の関係を受動態 (passive voice) の立場から一考すると，上述のように能動態は意味の上からは多様な場合を含んでおり，結局受動形でないものは能動態であるということになる．受動態というのもさまざまな場合を含んでいるが，ここでも代表的な受動文というのは，動作主に対する受動者を主題にした構文であるといえる．

(22)　John was beaten by Tom.

(23)　The bear was killed by the hunter.

ここでは受動者 *John* / *the bear* が主題とされ，動作主 *Tom* / *the hunter* は PP で (斜格で) 表わされている．その構造は次のようなものである．

(24)



動詞の受動形をつくる助動詞が *be-en* であることは XIII (2) で述べた．動作主が PP として明示されている場合や文脈から容易に推測できる場合は，受動文から能動文

をつくることができるが，動作主が不明か問題にされない場合は，能動文をつくることができない．これは *by* NP がない場合である．

(25)　His father was killed in World War II.

(26)　He was born in Massachusetts.

(27)　She was delivered of a child.

(28)　Rome was not built in a day.

これらの文では動作主が考えられていない．また PP が *by* NP であっても必ずしも動作主とは限らない．たとえば

(29)　The picture was painted by a new technique.

この PP は手段を表わす斜格である．もしこれが *by a real artist* であったら動作主を表わすことになる．

(30)　Coal was replaced by oil.

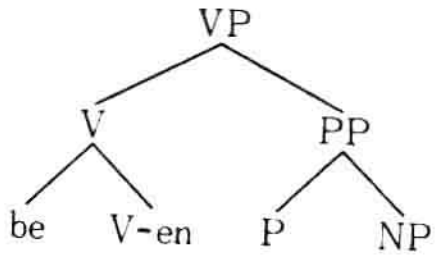
これは *oil* を比喩的に動作主ととることも可能であるが，やはり手段ととるべきで，動作主は問題にされていないと考えられる．

(31)　For weeks before Christmas, shops are crowded with people buying Christmas presents.

この文の *crowd* は本来他動詞で Shoppers crowded the stores のように目的語をとりうるが，上の受動文では *by people* というところが *with people* となっている．これは *are crowded* が状態を意味しているので動作主を表わす *by people* でなく，混雑をおこす要因と考えられた

with people が用いられているのである．こうなるとこの *are crowded* は動作の受動形(actional passive)ではなく，状態の受動形(statal passive)ということになる．(24)の図は動作受動形の構造であって，状態受動形は次のように表わされよう．

(32)



この V-en は過去分詞で，本来の受動形が助動詞 *be-en* による V の変化であるとすると，状態受動形でははじめから V-en が与えられている．それは過去分詞が形容詞的性格をおび状態の表現になっているということである．そこでこれにつづく PP の前置詞は動作主を表わす *by* 以外のものになる．ここに過去分詞の形容詞化する契機が見られる．(31)の類例をいくつかあげると，

(33) The sky is covered with clouds.

(34) A million books are contained in this library.

(35) The committee is composed of five members.

(36) He is known to everybody in the town.

これらは受動形とはいえ，既成の状態を述べているので，PP 内の名詞には全く動作主の感じはなくなっている．

(37) The city is well supplied with water.

(38) The town is situated on the hill.

これらにおいては動作主は全く問題外になっている.

過去分詞の形容詞化の程度を計る一つの方法は *very* で強調されうるか否かを見ることである.

(39)　He was (very) much surprised *by* her conduct.

(40)　He was very (much) surprised *at* her conduct.

ともに *very much* で *surprised* を強めることができるが, (39)は *very* だけで強めることはできない. まだ *surprised* が動詞として機能しているからである. これに対し(40)では *very surprised* が可能である. こうなると *surprised* は形容詞扱いということになる. また

(41)　He seemed [looked] surprised at the strange sight.

のように *seem* や *look* のあとに用いられるということも形容詞化のしるしである. さらに *-ly* をつけて副詞(surprisedly)を作ることもできる. このように形容詞化した過去分詞を分詞形容詞(participial adjective)とよぶことができる. 現在分詞についても同様で, *very surprising* や *surprisingly* が可能な *surprising* は分詞形容詞である.

本来の受動態は動作主と受動者の対立がはっきりしているところに見られるが, 動詞の意味が物理的な動作でなく心理的な影響を与えることであっても, 受動形の構文は作られる.

(42) a.　Her conduct surprised him.

b.　He was surprised by her conduct.

c. He was surprised at her conduct.

a. では彼の驚きの原因になったものが動作主の扱いをうけている．b. はその受動文であるが，その *by her conduct* が容易に c. の *at her conduct* に変ることは，上に見た通りである．ここには過去分詞の形容詞化の過程が見られるが，次の例では他動詞から自動詞への変化が見られる．

(43) a. He was worried by the dog.

b. He was worried about the dog.

c. He worried about the dog.

このように動作主と受動者の対立が薄れると，他動詞の自動詞化がおこる．

(44) He graduated from Yale in 1950.

もとは *was graduated* といわれたが，今では自動詞として用いるのが普通である．まだ他動詞として感じられる語でも，動作主が問題外のときは受動形でなく自動詞として用いられることがある．

(45) He has just qualified as a doctor.

(46) He naturalized in Canada [as a Canadian].

(47) The rumors multiplied.

これらの文は動作主とその行為という見方ではなく，ある過程に焦点があてられ，主語は主題にすぎないものになっている．

上例は人が主語の場合であるが，物についても同様なことがおこる．いわゆる能動受動態 (activo-passive) で

ある.

(48)　The door opens easily.(あく)

(49)　The rule applies in all cases.(あてはまる)

(50)　His book sells well.(売れる)

(51)　His scientific papers read like novels.(読める)

(52)　This material washes better than that one.(洗える)

(53)　Riches tend to accumulate.(たまる)

(54)　This patch won't show.(見えない)

(55)　The mud will brush off when it's dry.(〔ブラシで〕おちる)

(56)　The meat cuts easily.(切れる)

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com